

水技術の担い手、四国・香川の水意識を独自検証

日本水フォーラム「水にかかわる生活意識調査」に特別協賛

株式会社フソウ（本社：香川県高松市、代表取締役 社長執行役員：工藤 修）は、特定非営利活動法人日本水フォーラムが実施した「水にかかわる生活意識調査」（第 32 回〈令和 8 年度〉定点調査）に特別協賛しました。

今回の調査では、従来から行ってきた東京圏、中京圏、大阪圏（以下、東名阪）の調査に加え、フソウの創業の地であり、本社を置く四国地方を対象を広げた調査が行われています。

調査結果レポートは、日本水フォーラムのウェブサイト（下記 URL）をご参照下さい。

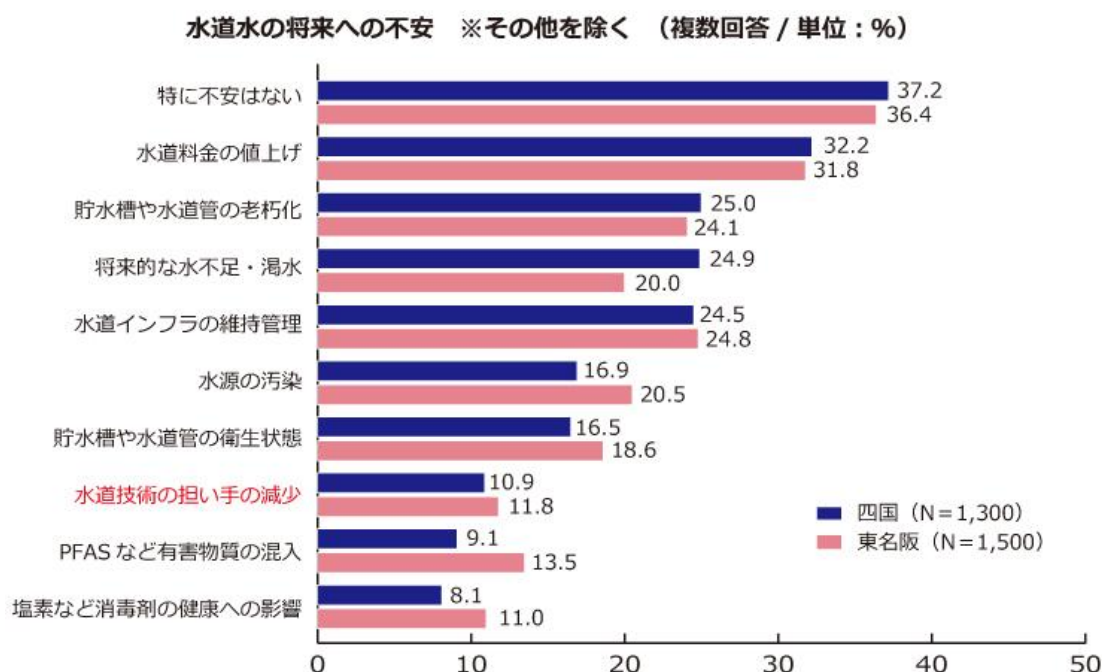
<https://www.waterforum.jp/news/24606/>

今回の調査では、四国についても東名阪と同じ設問で特別調査が行われ、地域特性が検証されています。

そこで、フソウでは一部のデータを調査主体である日本水フォーラムより提供いただき、「水技術の担い手」に関する意識、四国および香川県の水にかかわる生活意識について独自に検証を行いました。

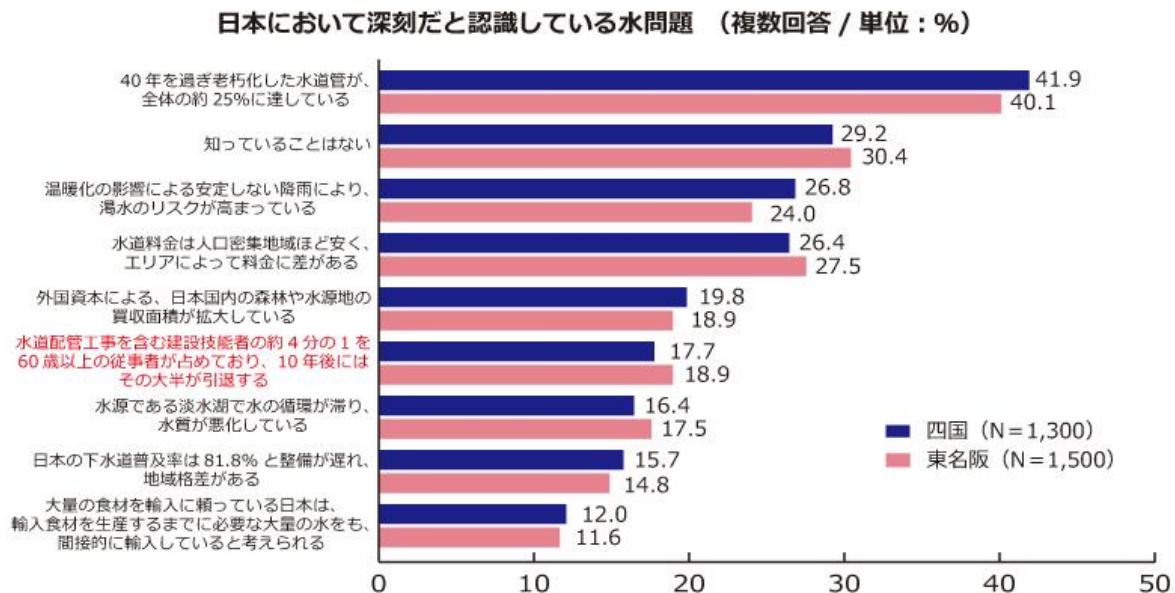
「水技術の担い手」については、「水道水について、現在または将来に向けて不安に感じていることはありますか」（9 択＋その他＋特に不安はない）との質問での「水道技術の担い手の減少」という選択肢への回答、および「日本においてあなたが深刻な問題だと認識している事柄をお選びください」との質問での「水道配管工事を含む建設技能者の約 4 分の 1 を 60 歳以上の従事者が占めており、10 年後にはその大半が引退する」という選択肢への回答から分析しました。

「水道技術の担い手の減少」に不安を感じていると回答したのは四国では 10.9%、東名阪では 11.8%でした。一方、四国・東名阪ともに、水道インフラの維持管理や施設の老朽化に対する不安は約 25%、水道料金の値上げに対する不安は約 32%に達しています。



また、深刻な水問題として、「水道配管工事を含む建設技能者の約 4 分の 1 を 60 歳以上の従事者が占めており、10 年後にはその大半が引退する」と回答したのは四国では 17.7%、東名阪では 18.9%でした。四国・東名阪ともに水道管の老朽化の課題に対する回答が約 40%であるのに対して、課題を解決する人材への問題への意識は低い結果となっています。

水道事業を取り巻くヒト・モノ・カネの課題のうち、「モノ」、「カネ」の課題の認知度に対して、「ヒト」の課題に対する認知度が低い傾向が見られました。



四国および香川県の水にかかわる生活意識については、香川県出身で上下水道インフラを研究領域とする中央大学社会理工学部山村寛教授の協力のもと検証を行い、主に次の 4 点の傾向が見られました。

- ① 四国は水の「量」への意識が高い
- ② 香川県は、四国の他 3 県に対して「渇水の経験・不安」が回答傾向に強く現れている
- ③ 四国・東名阪ともに給水制限を経験した人は節水意識が高い
- ④ 香川県の渇水・水不足、水環境保全への意識の高さは、渇水や水環境汚染を経験したシニア世代がけん引している

■中央大学社会理工学部人間総合理工学科 山村寛教授（水代謝システム研究室）の所見

水を分け合う四国の状況をよくあらわしているのが、水の「量」への意識です。渇水・水不足・森林の保全といった水の「量」に関わる項目を回答者が平均していくつ選んだかを見ると、四国は東名阪を上回っています。個別では「水不足・渇水への不安」+6.6pt、「森林の保全」+6.0pt、「将来的な水不足」+4.9pt の差が生じています。(参考資料※1) 水を共にする 4 県の様子が浮かび上がりました。

また、香川県と四国の他 3 県と比べた際に、渇水の経験に起因する回答、および不安に関する意識が高いことが傾向として現れました。(参考資料※2)

香川県出身の私自身、中学 2 年生のときに平成 6 年の大渇水を経験しました。香川県に絞り、年代別に渇水・水不足に関わる 5 項目を合わせた統計を見ると、意識は年齢とともにおおむね単調に高まっていますが、そのなかで 40 代だけが傾向線から上に飛び出しています。(参考資料※3)統計的に断定できるものではありませんが、現在の 40 代は、あの渇水を小学生から高校生の多感な時期に経験した世代であり、当事者としては腑に落ちる結果です。

同じ目で見ると、現在の 60 代が多感な時期を過ごした 1970 年代は、瀬戸内海で赤潮の発生が年間約 300 件に達し、COD 総量規制が導入された、海が最も汚れていた時代でした。「川や海にゴミを捨てない」という意識は四国全体で都市部より高く、世代で見れば 60 代が最も高い（参考資料※4）——これが赤潮の記憶によるものかまでは今回のデータでは判別できませんが、水環境の歴史と意識の分布が重なって見えるのは印象的です。その赤潮も、いまでは年間約 60 件と、ピーク時の 5 分の 1 にまで減りました。海がきれいになったこと自体は喜ばしい一方で、汚れていた海を知らない世代ほど水質への意識が低いという結果を見ると、環境の改善とともに意識もまた薄れていくのだろうか、と考えさせられます。

実際、今回の調査では、給水制限を経験した人は節水意識が 18 ポイント高い（参考資料※5）という明確な結果が出ています。小学校から高校までの「水との触れあい」や「水への思い」が、人生における水との付き合い方に大きく影響するのだと、データを見ながらあらためて感じました。

■株式会社フソウについて

1946 年に香川県丸亀市で創業。1961 年に本社を同県の高松市、1980 年に東京に移転し、2026 年より香川県高松市に本社を再び置くこととなりました。

上下水道をはじめとする水インフラ事業全般を、設計・施工・運転管理・メンテナンスまでワンストップで展開する総合水インフラ企業です。創業以来培った経験に基づく施工力と柔軟な現場力、これらに裏打ちされた提案力で設計・調達・施工と管理・保守のきめ細やかなサービスを提供。地域ニーズに適した官民連携・民民連携への対応、資機材の調達、製造、R&D、設備工事、O&M など、水インフラに必要な全機能を網羅。デジタル技術も積極的に活用し、これら各事業の専門性とデジタル技術を融合させ、水インフラサービスを未来世代につなぐためのソリューション創出を追求し、地域社会の課題解決に取り組んでいます。

■会社概要

本社所在地：四国本社 香川県高松市郷東町 792-8

東京本社 東京都中央区日本橋室町 2-3-1

資本金：30 億円

創業／設立：1946 年 8 月

拠点：国内 36 拠点

Web サイト：<https://www.fuso-inc.co.jp/>

8 月 1 日は水の日です

水循環基本法で 8 月 1 日を「水の日」と定めています。また、8 月 1 日～7 日は「水の週間」です



内閣官房水循環政策本部事務局は、水循環に資する取組を積極的に実施している企業を「水循環 ACTIVE 企業」として認証しています。水量や水質へ直接的に水循環に貢献する取組について『水量水質カテゴリー』、人材・資金及び機材等を介して水循環に貢献する取組について『人材資金カテゴリー』として認証しており、株式会社フソウは人材資金カテゴリーで認証されております。

－報道関係からのお問い合わせ先－

株式会社フソウ 経営戦略本部 広報課 武田

TEL：03-6880-2123 / MAIL：koho@fuso-inc.co.jp

(参考資料)

※1 水の「量」への意識を示す調査結果について

○Q. 現在あなたが、日々の生活の中で不安に感じている災害や問題は何か？（複数回答可）

回答項目	四国	東名阪
台風	37.6%	29.9%
ゲリラ豪雨	25.3%	26.1%
線状降水帯	21.8%	16.3%
雨による浸水	15.6%	13.1%
崖崩れ・土砂崩れ・山崩れ	10.9%	7.4%
雪崩	1.5%	2.5%
豪雪	3.0%	4.7%
河川の氾濫による浸水	16.7%	12.1%
土石流・鉄砲水	7.8%	6.0%
下水の氾濫	7.6%	8.5%
高潮	5.9%	3.9%
突風・竜巻などの風害	14.9%	13.6%
地震	48.2%	44.2%
津波	22.7%	11.7%
火山の噴火	2.5%	6.3%
家屋の倒壊	14.8%	11.8%
交通途絶	8.1%	8.7%
水道管の破裂	17.5%	18.3%
下水道管の破損	15.0%	16.3%
断水	21.1%	20.1%
水不足（渇水）	27.3%	20.7%
酸性雨による被害	4.8%	5.7%
地下水汚染の被害	7.5%	7.3%
火災	20.8%	21.1%
その他	0.0%	0.2%
特に不安を感じたことはない	16.7%	19.1%

○Q. 将来にわたって、きれいな水が飲めるようにするために必要なことは何だと思いますか。

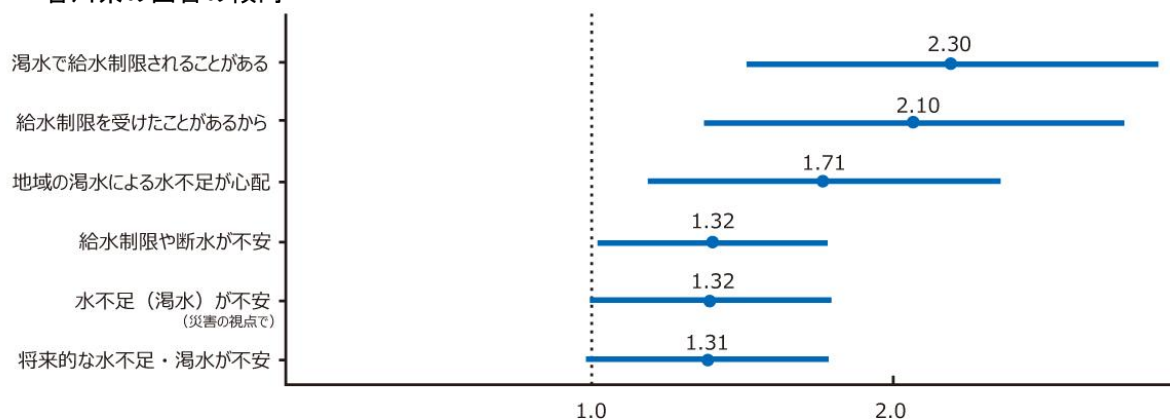
(3つまで)

回答項目	四国	東名阪
学校での自然・環境教育の充実	24.5%	22.7%
家庭での自然・環境教育の充実	15.8%	18.3%
自然をテーマにした公共施設の充実	10.5%	13.0%
農業・漁業・園芸などの体験機会	5.0%	6.3%
森林の保全	38.7%	32.7%
家庭の節水及び汚水を排水しない努力	26.1%	25.8%
企業の節水及び汚水を排水しない努力	21.3%	23.9%
河川や海にゴミを捨てない意識の向上	39.0%	31.9%
都市部における積極的な雨水利用	4.9%	8.3%
都市部における積極的な水のリサイクル（中水活用等）	6.2%	9.3%
河川や海の日常的な清掃	19.1%	18.7%
その他	1.1%	1.2%

○Q. 水道水について、現在または将来に向けて不安に感じていることはありますか。（複数回答可）

回答項目	四国	東名阪
水源の汚染	16.9%	20.5%
貯水槽や水道管の老朽化	25.0%	24.1%
貯水槽や水道管の衛生状態	16.5%	18.6%
PFAS（ピーファス）など有害物質の混入	9.1%	13.5%
塩素など消毒剤の健康への影響	8.1%	11.0%
水道料金の値上げ	32.2%	31.8%
水道インフラの維持管理	24.5%	24.8%
水道技術の担い手の減少	10.9%	11.8%
将来的な水不足・渇水	24.9%	20.0%
その他	0.1%	0.1%
特に不安はない	37.2%	36.4%

※2 渇水の実験・不安に関する選択肢を回答した傾向を徳島・愛媛・高知の水準を 1.0 とした場合の、香川県の回答の傾向



香川県の調整オッズ比（四国他 3 県 = 1.0）※1.0 を上回ると香川県が相対的に高いことを示す
（年代・性別・職業・住居形態・婚姻・世帯人数を統制。比較対象は徳島・愛媛・高知の計 950 人）

※3

○「渇水・水不足」に関わる質問項目の香川県の回答者の年代別回答傾向（N=350 人）

	全体	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代 以上
「水道水について、現在または将来に向けて不安に感じていることはありますか」（回答項目 11 項目、複数回答可）との問いに対して、「将来的な水不足・渇水」と回答した割合	28.6%	35.3%	22.5%	29.1%	27.2%	35.6%
「日常生活での節水を実践する理由について、あてはまるものをお選びください」（回答項目 16 項目、複数回答可）との問いに対して「自分が暮らす地域の渇水による水不足が心配なため」と回答した割合	12.9%	5.9%	6.7%	12.7%	15.2%	15.1%
「あなたが日頃不安や心配に感じていることは何ですか」（回答項目 14 項目、複数選択可）との問いに対して、「給水制限や断水」と回答した割合	37.7%	35.3%	29.2%	43.0%	38.0%	42.5%
「現在あなたが、日々の生活の中で不安に感じている災害や問題は何か」（回答項目 26 項目、複数選択可）との問いに対して「水不足（渇水）」と回答した割合	32.3%	11.8%	28.1%	38.0%	28.3%	41.1%
「地球温暖化に伴う気候変動によってもたらされる危機のうち、あなたが日頃意識している危機をお答えください」（回答項目 14 項目、複数選択可）との問いに対して「生活用水の不足」と回答した割合	22.9%	17.6%	15.7%	22.8%	29.3%	24.7%

※4

※1 に掲載の表「将来にわたってきれいな水が飲めるようになるために必要なこと」（回答項目 12 項目、3 つまで回答可）との問いに対して四国地方において「河川や海にゴミを捨てない意識の向上」と回答した年代別割合

全体	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上
39.0%	30.0%	36.7%	38.0%	39.3%	45.0%

※5

「日常生活での節水を実践する理由について、あてはまるものをお選びください」（回答項目 16 項目、複数回答可）との問いに対して「給水制限を受けたことがあるから」と回答した 101 人（四国・東名阪の双方を含む）と、この選択肢を回答していない 2699 人に対して、「あなたは、日常生活において節水を意識していますか」との回答をクロス集計したところ、「（節水を）意識している」と回答した割合は、給水制限経験者が 88.0%、給水制限未経験者が 70.8%となり、18 ポイントの差が開いた。